



No. 50

9/28. 2008

Moriya International Friendship Association

MIFA NEWS

20周年記念特集

守谷市国際交流協会広報委員会発行

事務局 住所：守谷市大柏950-1

電話：0297-45-1111

URL：http://www.fureai.or.jp/mifa



上：活動拠点のログハウス



右：2001.9.24 MIFAフェスタ

ごあいさつ

守谷市国際交流協会会長 小川 一成



をつくってきた歴史があります。

協会を立ち上げたばかりの頃は、全員が手探りではあったけれども熱い想いだけは十分にありました。また、時の運にも恵まれて、当時、守谷市に進出を決めたアサヒビールから我々の活動拠点となる国際交流研修センター（通称：ログハウス）が寄贈

されました。これを契機に会員も増加し、活動も年々活発になって参りました。

JICA筑波との交流は発足当初から始まっていましたが、10周年を契機により一層交流が深まり、最近ではお互いに相互補完をしながら我々MIFAが国の事業の一翼を担ったりして交流はさらに深くなって参りました。MIFAの活動が近隣や県、国に知られるようになるにつれて、その活動が評価され、JICA理事長の緒方貞子さんから感謝状をいただくまでになりました。

20年の歩みを振り返ると、よくぞここまでという思いがわいてきます。これもひとえに会員の皆様の献身的な参加とそれを支えてくださった地域の団体の皆様のおかげがあったからだと改めて感謝を申し上げたいと思います。

MIFAは20周年を機に新たな一步を歩みだします。

「国際交流は市民交流だ」という20年前の原点を忘れず、これからも地域の皆様とともに歩んでいきたいと思っています。

思い出して下さい 今日までのこと そしてまだ見ぬ明日に思いを馳せて



1993.11.3 イスラエル大使講演会



2002.9.12 マインブルク市高校生フェアウェルパーティー

昭和63年度（1988年度）事業

- 10.15 第1回姉妹都市交流の検討会

平成元年度（1989年度）事業

- 5.26 第1回国際交流協会発起人会
- 7.22 守谷町国際交流協会設立総会
- 11.25 国際交流講演会
- 1.18 第1回語学講座（英会話初心者講座）

平成2年度（1990年度）事業

- 4.27 ニュースレターNo.1発行
- 5.13 1990年度総会
- 8. 3 ~14 第1回青少年海外派遣事業
- 10.14 町民体育祭でフランクフルトフェア
- 11. 3 ドイツ・マインブルク市と姉妹都市調印式及び祝賀会・ログハウス落成式
- 11.17 筑波インターナショナルセンター（現JICA筑波）研修員ホームステイ
- 12.15 クリスマスパティー

平成3年度（1991年度）事業

- 8.21~30 市民訪問団マインブルク市訪問
- 9. 8 室内楽の夕べ（NHK交響楽団団員）
- 11.16 第1回国際交流フォーラム
- 2. 4 茨城県国際交流奨励賞受賞

平成4年度（1992年度）事業

- 4.25 在住外国人招待MIFAパーティー
- 7.11 筑波大学留学生との交流会
- 11. 1 外国文化紹介事業 プレ・イスパニック音楽会

平成5年度（1993年度）事業

- 7.10~11 学生委員会宿泊研修
- 7.29~8. 9 第4回青少年海外派遣事業
- 8. 3 アメリカ・コロラド州グリーンリー市と姉妹都市提携調印式
- 11. 3 第1回「世界を知るシリーズ」イスラエル大使講演会

12. 4 外国文化紹介事業 ルーマニア正教会総主教座合唱団コンサート

- 1.19 日本語ボランティア養成講座

平成6年度（1994年度）事業

- 6. 1 第1回外国人のための日本語講座
- 9. 4 スリランカ大使館参事官講演会
- 11.19 上村泰一ジャズコンサート

平成7年度（1995）事業

- 8. 5 新入会員ウェルカムパーティー
- 8.24~31 市民訪問団グリーンリー市訪問
- 9.23 ~10.1 市民訪問団マインブルク市訪問
- 12. 7 モンデールアメリカ駐日大使夫人講演会
- 1.14 アーカス構想アーティストのレクチャー&交流会
- 3.24 カナダ駐日公使講演会

平成8年度（1996）事業

- 9. 7 フォルクローレ・コンサート
- 10. 6 ふれあいネット'96「われら地球人」（JICA研修員との集い）
- 3. 7~8 筑波大学留学生受け入れ（筑波大学共催）
- 3.20 南アフリカ大使講演会

平成9年度（1997）事業

- 10. 4 いばらき県国際交流月間参加事業「われら地球人」MIFAパーティー
- 12. 5 外国文化紹介事業 デルネス・コンサート
- 2. 1 青木前ペルー大使講演会

平成10年度（1998）事業

- 9.15 アーカスアーティスト交流会
- 10. 4 設立10周年記念式典
- 10.20~28 マインブルク市民来市
- 10.25 マインブルク市プラスバンド町民体育祭に参加
- 2. 1 ホームページ開設
- 3.21 セネガル大使講演会

平成11年度 (1999) 事業

- 6.20 ウズベキスタン大使講演会
- 9.26 MIFAフェスタ「われら地球人」
- 10. 4～11 市民訪問団マインブルク市訪問
- 10.17 アーカスアーティスト交流会
- 11.23 「異文化を探ろう」宮島達男講演会
- 12. 5 村上泰一ジャズライブ

平成12年度 (2000) 事業

- 4.21～30 マインブルク市サッカー少年団来市
- 7. 2 ベトナム公使参事官講演会
- 9.24 MIFAフェスタ
- 10.19～27 マインブルク市民来市
- 10.21 マインブルク市姉妹都市締結10周年記念式典
- 3.18 MIFAコンサート村上泰一ジャズライブ

平成13年度 (2001) 事業

- 4.13～21 グリーリー市高校生来市
- 6.24 第1回日曜サロン
- 7.20～21 外国人と富士登山
- 9.24 MIFAフェスタ2001「われら地球人」
- 11. 8～15 ラオス青少年来市（茨城県青年海外協力隊を育てる会共催）
- 11.11 ラオスデーin守谷&ラオス大使館参事官講演会
- 2. 2 守谷市開市式
- 3.13 国際交流サロン
- 3.17 MIFAコンサート「中国音楽のしらべ」

平成14年度 (2002) 事業

- 7. 6 国際理解講座「対人地雷の現状と今後の課題」
- 7.13 第1回MIFAサロン
- 9. 4～13 マインブルク市高校生来市
- 9.29 MIFAフェスタ2002
- 11.10 国際情勢講演会「外務省改革」
- 3. 2 イギリス大使館参事官講演会
- 3.15 MIFAコンサート「サルサの夕べ」

平成15年度 (2003) 事業

- 4.18～24 グリーリー市高校生来市
- 4.22 グリーリー市姉妹都市締結10周年記念式典
- 7.30 15周年記念事業MIFA専用倉庫設置
- 9.28 MIFAフェスタ2003
- 10.18 大好きいばらき県民まつり・国際交流ひろば
- 10.19 MIFAコンサート「音楽で世界を巡る」

- 2. 3～ 3.30 JICA草の根技術協力事業・地域提案型（通称：ラオスプロジェクト）実施
- 3.21 スーダン大使講演会

平成16年度 (2004) 事業

- 9.26 MIFAフェスタ2004
- 10. 1～12.22 ラオスプロジェクト
- 11.14 ラオス大使館参事官講演会
- 2.12 MIFAコンサート「幽玄の世界へようこそ」

平成17年度 (2005) 事業

- 6.17～23 グリーリー市高校生来市
- 8.27・28 TX開業記念式典（8.22～8.29マインブルク市・グリーリー市市長ほか来市）
- 10. 1～12. 9 ラオスプロジェクト
- 10. 2 MIFAフェスタ2005
- 11. 3 エチオピア大使講演会&コーヒーセレモニー
- 11.27 MIFAセミナー「開発教育勉強会」
- 1.21 MIFAコンサート「バンドゥーラの弾き語り」
- 3.10 平成17年度茨城県国際化推進奨励賞受賞

平成18年度 (2006) 事業

- 4. 2 開発教育ワーキンググループ発足
- 8.26・27 きらめき守谷 夢彩都フェスタ2006
- 9.24 MIFAフェスタ2006
- 10. 2 国際協力機構（JICA）理事長感謝状受賞
- 12. 3 開発教育シンポジウム「国際化ワークショップ」
- 2. 4 世界を知るシリーズ・ドイツ編「グリム童話の里」
- 3.28～ 4. 6 マインブルク市民来市

平成19年度 (2007) 事業

- 6.19～25 グリーリー市高校生来市
- 9.30 MIFAフェスタ2007
- 11.24 チェコ大使講演会
- 1.12～14 筑波大学短期研修生（韓国現職教師）ホームステイ
- 2.24 MIFAコンサート「草原のチェロ・馬頭琴」

平成20年度 (2008) 事業

- 4.17～21 「21世紀東アジア青少年大交流会」中国高校生来市
- 8.18～27 マインブルク市高校生来市
- 9.28 MIFA設立20周年記念式典および記念事業



2003.4.22 グリーリー市姉妹都市締結10周年記念式典



2006.1.21 MIFAコンサート「バンドゥーラの弾き語り」

ラオス・ルアンプラバン・C.C.Cとの交流

息の長い市民交流を目指して



C.C.Cで行なわれたパーシーセレモニー

ラオスとの交流は1999年11月のスタディーツアーから始まりました。なぜ、ラオスなのか。話は、「茨城県青年海外協力隊を育てる会（以下、育てる会）」の発足まで遡ります。

1996年、育てる会が発足したとき、MIFAの多くの会員が同会に参加し、活動の一端を担いました。発足して3年経ったころ、育てる会として特定の国と息の長い交流はできないか、刹那的にあちらの国、こちらの国と交流するのではなく、腰を据えて継続した交流を続けたいと考えました。条件として、青年海外協力隊が展開している国。また、大人だけの交流ではなく子どもたち、中学生や高校生もスタディーツアーに参加できる国があげられました。そうすると地域は限られます。アフリカでは遠すぎる。文化圏からいってもアジア、それも東南アジアがいい。その中で、タイ、フィリピンは途上国の中では優等生で、自助努力でやっていける。ミャンマーは軍事政権で不透明なところがある。カンボジアはいまだに地雷の撤去が続いている。ベトナムは経済発展が目覚しく、すでに各国の支援が入っている。それならばラオスはどうだろう？

1999年11月、MIFA会員5人と育てる会から1人の参加を得てスタディーツアーを行いました。現地では限られた時間の中でできるだけラオスの現状を見たいと思い、これにJICA現地事務所が全面的にバックアップしてくれました。日本大使館も表敬訪問したのですが、宮本吉範特命全権大使は一行を公邸に招待して晩餐会を開いてくれ、JICA職員も「初めてのこと」と驚くような歓待を受けたのです。そのツアーでは日本の無償援助で作られたチナイモ浄水場やラオス国立病院、中学校などを視察したのですが、まず感じたことは治安がいい。また、ラオスは仏教国で日本人と価値観が似ている。一昔前の日本人のように義理堅く礼儀正しい。なによりも、ラオスは国連の最貧国に位置付けられており確かに物質的には貧しいけれども、心が

豊かです。感謝する心を忘れません。視察した中学校の生徒たちの瞳は輝き、学ぶことができることへの喜びがあふれています。そんなところに共感して、この国となら末永い交流ができると確信しました。

その後、2001年にはラオス第二の都市ルアンプラバンにあるC.C.C（チルドレン・カルチャー・センター＝地域子どもたちが放課後に自主的に集まり、指導者の下、各種の課外活動を行なう施設）の生徒10人を育てる会と共催で守谷市に招待し「ラオスin守谷」を開催。翌2002年にはMIFA学生委員会（当時）のメンバーを中心とした高校生5人がラオススタディーツアーに参加、2003年から05年にかけてはJICAの「草の根技術協力事業・地域提案型」でラオスの教育者を各年2人、招聘したりと交流を重ねてきました。

私たちはアメリカン・ドリームの中で育ってきました。50年代、60年代アメリカのテレビドラマを見て、アメリカは豊かで正義感あふれる夢がかなう国だと思いました。今、ラオスの子どもたちは日本が憧れの国です。1975年、ラオスは、ラオス人民民主共和国として共産主義の国になりました。そのとき共産主義を嫌い、たくさんの知識人が国外へ亡命しました。そのため国造りをする中核の人材がいません。もしMIFAが、ラオスの子どもたちに夢を与え、人材育成の一端を担うことができ、逆に私たちが豊かな、素直な気持ちを得られたとしたら、ラオスにとっても日本にとっても意味があることではないかと思います。2001年、初めて日本に来た子どもの一人は、限られた条件の中で日本語の勉強を続け、今、日本語ガイドができるくらいになっています。

初めての訪問から9年。相互訪問は13回を数え、総数では100人を超える人たちが交流を重ねています。初めは消去法で選んだラオスですが、今ではMIFAにとっても太いパイプで結ばれた国になっています。これからもこの交流が末永く続くことを願っています。



古い仏教の街ルアンプラバン。朝の托鉢が今も残る